

イエレンディ王国の歴史

スマートな新しい周遊船が苦勞して海水をはねとばすにつれて、周遊案内人は、この船がどこに向かっているかについての彼女の「有益な」解説で、小舟を思うままに安定させるのを再度中断する。この小舟の真新しい白い塗装は海で使用された期間が短いのでまだ変色しておらず—あとたった数ヶ月後には表面に付着する海草とフジツボによって緑がかってしまうであろう—船尾に丁寧に書き込まれた船名であるモーニング・レインはまだ読むことができる。

周遊案内人であるマルは、白のローブ状のドレスと腰に巻いた派手な色の飾り帯で入念に着飾っている。風が彼女のドレスの裾を揺らし、小舟が上下に揺れる度に彼女の日に焼けた両足をあらわにする。どう見てもこの案内人は、いつもそれほど上品な服を着ていないようだ。あなたが聞いた話では、この島でこんなに控え目な服を着ているのはごく少数と言うことだ…

早朝にしてはあまりに口数の多い、マルの元気な声は再び乗客達をいらだたせ始めた。口早に話し、自分の意見を加える彼女の習癖は多くの者達を著しくいらつかせるが、彼らはこの旅のために早く起床したことによって失った睡眠時間を取り戻すためにじきに静まる。それにも拘わらず、マルは時分の仕事を続ける。

「イエレンディの島々は本当に比較的短い歴史を持ちます」とマルが説明する。

「この島々は恐らく、望ましくない人々を海に遺棄するというファイブ・シャイアズの奇妙なやり方による追放者達—スリ、殺人者達—ご存じの通りの街のクズ—toに発見されました。これは役に立たない犯罪者達を処刑するための素晴らしい方法でした。でもあなた方はそれをご存じでしょうか？もちろん彼らは生き残りました。私が言いたいのは、私は彼らがクズでかつ死んで当然の者達だと理解していますが、彼らこそが私の祖先であるということです。私の父の父の父の母が、彼らの1人であった様です」マルは説明し、居眠りしている乗客達を上の方で故意に邪魔をする。

「それで、これらの役立たずの犯罪者達ですが、まあ、彼らは正に漂流し、飢え、生の魚を食べ、ひどい—本当に凄まじい—日焼けを受けました。それから彼らはこの小さな島を見つけ、それが無人島に思えたので、追い出されることはないと考えて糧で漕ぎ寄せ、そこに落ち着きました」

「私が言いたいのは、それは英雄的ではないか？ということです。私達全ては何らかの本当の英雄達—とても勇敢な本物の男達—もちろん女の子達も—を必要とします。ご存じですか？

「それで、これらのひどく勇敢な人々はこの島の原住民達を征服し、残りは一さて—歴史です！そしてそこで、あなた方にはイエレンディに関する簡潔な教訓があります。ああ、私はほとんど忘れました；数年後、主島の人々の一部が少々落ち着かなくなり、そして他に何があるか探すために海を探検することに決めた。そしてそれが我々がいかにここで他の9つの島々を得たかということです。もしあなた方がイエレンディに関する質問が何かあれば、私は全ての大切な詳細を知っているので、ただ私に聞いてください。本当ですよ！」

現在イエレンディ王国として知られている島々は、数世紀の間土着の原住民達（マカイ民族）が定住していた。しかしながら、多くの島民達はAC6世紀末のファイブ・シャイアズからの入植者達の到着が歴史の始まりとみなす。

伝説におけるイエレンディの成立——

島民達は、この島々に最初に定住したのは、AC500年頃のパイク・シャイアズからの漂流者達であったという意見に賛成する。この伝説には、いくつかの異説が存在する；以下のものは、最も一般に受け入れられている。

原住民であるマカイ達は温厚な軽蔑をこめてこの伝説を見るが、彼らは一般に部外者達と彼ら自身の見解による島々の歴史を論ずることを拒否する。大陸の賢者達も、この伝説を懐疑と共に扱うが、多くはこの伝説が歴史的な出来事に基づいているであろうことに同意する。

盗人、乞食、債務者や他の犯罪者達が、ファイブ・シャイアズのハイシャイアの庄長の面前に連行されて来た。慣例により庄長はこの犯罪者達に死刑を宣告したが、そこで彼の面前に立つ犯罪者達の内の1人が彼自身の兄弟であることが明らかになった！

庄長は彼自身の親族に死を命じることを望まなかったが、国法に縛られており、死刑を免じることはできず手段を選択するくらいしかできなかった。彼は犯罪者達の集

団を外洋に漂流させることを選び、この様な憎むべき犯罪にふさわしいのは悲惨で長引く死であると公表した。しかし、私的には彼の兄弟がどうにか生き残れることを望んでいた。

水、食糧、装備なしでこの犯罪者達は海洋のただなかで漂流状態にされた。彼らは3週間漂流した。何人かは日に当たり過ぎ、何人かは飢え、何人かは渴き、何人かは他の死刑囚の手にかかって死んだ。3週間目の内に、暴風が彼らの小舟をイエレンディ島に吹き寄せた。死刑囚達の1/3弱がまだ生き残っていた。

原住民達は距離を置いてはいたが、敵対的ではなかった。そして難民達はすぐに島の豊富な資源を見いだした。やがて原住民達は侵入者達を受け入れ、土着の伝説を彼らと共有した。

数年が経過した。元犯罪者達は島の生活に適応し、小さな村を作り、原住民達のような漁と農業のやり方を学んだ。ついに、この小さな集落は大陸の貿易船に発見された。豊かで肥沃な島に設立された繁栄している集落の噂はファイブ・シャイアズに知らされた。

ファイブ・シャイアズはその集落がシャイアズの領土であるという主張を試み、その主張を実行させるために数隻の艦船と海兵を送り込んだ。驚くべきことに、元犯罪者達と原住民達は、この先の全ての軍事的遠征を思い止まらせるのに十分な程、決定的にシャイアの兵力を破ることに成功した。十分な装備を持ち、より多勢で、専門的に訓練された軍事遠征部隊に対する島民達の功を奏した抵抗の神秘的な成功は、元はといえば原住民の秘密の戦術、技量、道具—恐らく魔法の一—に起因した（この様な強力な軍事的能力が現代の原住民達に残されているという証拠は伝説の中にさえ見当たらないが、原住民のシャーマン達はそれにも拘わらず、彼らが世界のあらゆる軍勢を打ち破ることができると自慢する）。

生き残った漂流者達は人間が11人、ハーフリングが4人、ドワーフが3人、エルフが5人であったと言われる。島民達の多くは、これらの最初の定住者達の家系であることを主張する。この疑わしい主張を擁護する奇妙な説明は、驚くべき数の島民達がその左肩に、彼らが最初の定住者達から代々受け継いできたと主張するS字型の痣を持っているということである。この痣は